

移住者日記



No.1



一般社団法人葛尾むらづくり公社 移住支援員
葛尾村移住・定住支援センター 地域プロジェクトマネージャー
成田 朱実 様

2022年3月より、一般社団法人葛尾むらづくり公社の移住支援員ならびに葛尾村移住・定住支援センターの地域プロジェクトマネージャーとして勤務しております。大学時代にはプロジェクトマネジメントを専攻し、前職は外資系のIT企業にてプロジェクトマネージャーとして仕事をしてきました。昨年プロジェクトマネジメントの国際資格であるPMP（Project Management Professional）を取得し、次のステップに進むことを考えていた際に、葛尾村の地域プロジェクトマネージャーの仕事を見つけ、元々自然が豊かな場所が好きだったこともあり、求人に応募することを決めました。

東日本大震災の発生時は、高校1年生で千葉県にある実家に住んでいました。病院に入院している祖母のお見舞いに行き、車で帰路につこうとした矢先に地震が発生しました。地面が波打ち、病院からは看護師さんや患者さんが外に出てきていましたが、家の様子も心配だったため、道路が混雑する前に帰る決断をしました。帰り道、いくつかの家屋で火事が発生し、煙が上がっていたのを覚えています。都内で勤務していた父が帰宅したのは翌朝のことでしたが、家族全員が無事で良かったと思っています。

葛尾村に移り住む際、放射線に関する不安が全くなかったかと問われれば、そういうわけでもありませんでしたが、国がそこに住むことを認めていて、実際にそこで生活している人がいる以上、問題はないのだろうと考えていました。

現在の仕事では、移住を検討している方からの相談に対応しております。放射線に関する相談は決して多くはありませんが、しばしば受けることもあります。これまで対応した中では、移住を考えている本人はそこまで気にしていなくても、家族や友人が心配していたため相談したという方もいらっしゃいました。その方の場合は、数値のデータや科学的な情報よりも、同じ移住者である私個人の意見を聞きたいということでしたので、自分自身が感じていることを素直にお伝えしました。

私は至る所で川のせせらぎを感じることができる葛尾村の環境をととても気に入っています。また、村に移住してきてから、意外と若い人たちが頑張っている地域であることを知りました。さらに、葛尾村はまだこれから新しいものが増えていくフェーズであることも魅力の1つです。これから葛尾村に移住してきた方々にとって、はじめから村に馴染んで生活することは難しいかもしれませんが、徐々に自分たちの居場所と感ずることができるようなコミュニティを形成し、村に長く住んでいる方と交流を深め、上手く混ざり合って生活できるようになると良いなと思っています。